

第6回会津若松市総合計画審議会 議事録

日 時 令和8年6月22日（月） 午後1時30分～午後4時5分
 会 場 会津若松市生涯学習総合センター 多目的ホール
 出席者 会津若松市総合計画審議会委員16名（16名のうち2名欠席）
 事務局（企画政策部副部長兼企画調整課長、企画調整課員2名）
 総合計画策定支援業務受託事業者（株式会社NTT データ経営研究所2名）
 内 容 以下のとおり

1. 開会
2. 会長あいさつ

発言者	内容
司会（企画調整課長）	会長よりごあいさつを申し上げます。
会長	本日は第6回の審議会ということで、いよいよ佳境に入ってきました。前回の審議会では宗像委員から子育て・教育に関して、当事者の視点に立った、貴重なご意見をいただきました。PDCAを回して、計画を策定していくしくみづくりが大事になります。前回は人口減少を前提にした、まちづくりについて議論いただきました。関係人口や交流人口を活用する上でもより魅力的なまちづくりをしていくことが重要となります。転出者が転入者を上回る地域も相応にあり、人口流出を留めるためにもそれぞれの地域で魅力ある地域づくり、あるいは若者たちの挑戦を後押ししていくしくみが必要です。 東京から地方に移住した女性から聞いた話ではありますが、その地域では地域全体で子育て支援を行うしくみがあり、キャリアを活かした仕事と子育てが両立でき、充実した生活ができているという話を聞きました。審議会でも教育や子育ての意見が多く出たと思いますので、そのあたりを会津若松の魅力の一つとして、打ち出すことができればと思います。それ以外にも皆さんから多くの意見を頂戴できればと思いますので、本日もどうぞよろしくお願いいたします。
司会（企画調整課長）	ありがとうございました。

3. 議事

(1)第8次総合計画 基本構想及び基本計画（素案）について

①基本構想

②基本計画（基本構想の位置付けと構成、将来人口に関する考え方、まちづくりアクション）

③基本計画（政策・施策1～9）

④基本計画（政策・施策10～19）

(2)その他

発言者	質疑内容等
●事務局	本日も、次期総合計画の策定の支援を行っていただいている株式会社 NTT データ経営研究所からも出席をいただいております。 委員 16 名中 14 名が出席されておりますので、総合計画審議会条例第6条第2項の規定に基づき、本日の会議は成立しておりますことをご報告いたします。 それでは会長より議事を進めていただきます。よろしくお願いいたします。
○会長	しばらくの間、議長を務めさせていただきます。委員の皆様には、円滑な議事進行にご協力をお願いいたします。 それでは、次第に従いまして議事を進めてまいります。 はじめに、(1)第8次総合計画 基本構想及び基本計画（素案）「①基本構想」について、事務局の説明をお願いいたします。
●事務局	（資料に基づき内容を説明）
○会長	説明が終わりました。 まず、①基本構想について、ご意見等を頂戴したいと思います。
○委員	別紙資料4ページ「【持続可能性】次の世代へつなぎつづくまち」の部分の16行目の「、」が多いので修正していただきたいと思います。
●事務局	修正します。
○会長	それでは、次に「②基本計画（基本構想の位置付けと構成、将来人口に関する考え方、まちづくりアクション）」について、事務局から説明をお願いします。

●事務局	(資料に基づき内容を説明)
○会長	ありがとうございました。②基本計画（基本構想の位置付けと構成、将来人口に関する考え方、まちづくりアクション）について、ご意見を頂戴したいと思います。
○委員	別紙資料 11 ページ 4 行目以降に「結婚している女性は比較的多くのこどもを出産していますが、それを上回り、年間婚姻数が減少傾向にあるため」との記載がありますが、「それを上回り」との表現は分かりにくいと思います。
●事務局	分かりやすい表現に修正を検討します。
○委員	別紙資料 23 ページ 6 行目の「多様な主体」とは何を指しますか。
●事務局	「市民」を指しています。会津若松市の自治基本条例では、市民が「まちづくりの主体」と定義されているため、「主体」ではなく、「まちづくりの主体」が正確な記載になります。
○委員	別紙資料 25 ページ 3 行目に「私たち」という一人称が出てきますが、他の箇所では出てきていません。「私たち」は市を意味しているのでしょうか。市民を意味しているのでしょうか。
●事務局	基本構想のまちづくりコンセプトでは、「私たち」を使用しています。総合計画は、市民の方々と共有する計画という意味合いもあるため、あえて「私たち」という表現を使用しています。しかしながら、「私たち」という記載がこのページにしかなく、唐突感がある表現であれば、記載内容を検討いたします。
○委員	これからパブリックコメントや議会で厳しい指摘を受ける前に、矛盾を解消しておく必要があると考えています。そのような観点で、いくつか疑問を感じた点があるため、意見いたします。 ①人口減少を前提とした政策と成長型のビジョンが併存している点です。例えば、「若者や女性に選ばれるまちづくり」等の記載がある一方で、出生数・婚姻数が減少している、特に若い女性が流出し

●事務局	ていると、先ほど説明いただきました。人口減少社会で従来型の行政サービスをどのように縮小・再検討していくかということよりも、人口減少を改善し、発展する方向に重点が置かれていないでしょうか。つまり、人口を増やす政策と、行政サービス・施設を再設計し縮む政策の両立が必要と思いますが、縮む政策の観点がないと思います。 ②「若者・女性に選ばれるまち」と「雇用環境」は連動する観点と考えています。若者が市外に流出してしまう要因には、仕事はあっても希望職種がない、希望賃金ではない、キャリア形成の機会がないことがあると思います。また、デジタル人材の活用という記載もあるが、会津大学でデジタル関連の知識を得た学生が市内の企業で働ける環境が整っているとは言えず、人材育成と雇用環境が連動している状況とはいえないのではないのでしょうか。 ③市民協働・市民参画という理念がありますが、地域活動の担い手が不足しており、地域コミュニティを維持していくのは困難な状況にあると考えます。地域の組織が維持できるように組織の統廃合や報酬制度等のしくみづくりまで行政が踏み込むべきではないのでしょうか。 ④「誰一人取り残されない地域共生社会」という理念がありますが、高齢化に伴う社会保障費等の増加が見込まれる財政状況等を踏まえると、全ての公共サービスを維持するのは困難であるため、「しないこと」を決めることも重要な戦略と考えます。計画全体を通して、その観点への言及が弱いと思います。 各質問について以下のとおり、回答します。 ①人口減少と経済成長を両立させるのは難しいのではないかとというご意見と理解しました。人口減少している中でも、地域内で経済循環をさせていけば、地域内所得が増える可能性はあると考えています。人口減少と地域経済の拡大は両立できるのではないかと考えます。 ②会津大学の学生の8割が卒業後、県外に出ていく実態は変わっていません。会津大学の学生を中心とした若者が、転出してしまっていることに対して、地元企業に高度デジタル人材を活用できる職種がないことが問題であり、稼げる企業になっていくように支援していく必要があると考えています。また、大学との連携も必要であり、地元企業と大学をつなげる取組を若者・女性に選ばれるまちづ
-------------	---

	くりという視点で強化していきたいと考えています。 ③実際、地域コミュニティの担い手は同じ方が重複して担っており、議会からも指摘を受けています。地域コミュニティの運営が難しくなっている状況というのは、他会議体でもご意見いただいています。新たな担い手確保に向けては、町内会・各種団体で外部の人を受け入れやすい、入っていきやすい環境づくりが必要と考えています。地域おこし協力隊というツールもあります。一筋縄ではいけないと思いますが、様々な人を巻き込んでいくしくみづくりが必要だと思います。 ④行政計画である以上、やらないことを言及することは難しいと考えています。例えば、公共交通は利用者が少ないからやめるという選択もできますが、市民からは維持すべきという意見が多い状況です。このため、事業を取り止めるのではなく、持続可能なやり方に変えていくという発想で検討していく必要があると考えています。
○委員	浜松市では、大手メーカーの工場が立地しているものの、若者の希望する職種とのミスマッチが生じていることから、若者の流出が問題になっているようです。
○委員	目標人口について、2070年に6万人目指していこうと言われても、6万人にならないと思います。例えば、15万人を目指して、ようやく6万人に留まるのではないかと思います。目標人口は6万人で良いのでしょうか。
●事務局	将来展望人口6万人の目標年次は2070年とかなり先になっています。2040年には、9万人程度になる見込みです。現行計画の将来展望人口は10万人規模を維持していくことが目標となっていますが、その実現には、出生率を2.4程度まで上昇させなければいけない状況であり、現実的ではないと考えています。現実に沿った、リアリティのある実現可能な数値で目標設定をしています。
○委員	以前、国で異次元の少子化対策を打ち出していたが、会津若松市で異次元の人口対策をすることは無理なのでしょうか。個人的な意見であるため、事務局からのコメントは不要です。

○副会長	目標を高くすることも必要と思いますが、商工会議所でも人口のシミュレーションをした際にも、65,000 人程度の推計となりました。本計画の将来展望人口の設定に鑑みても現実的と考えます。翻って、人口が減ると経済が落ち込みます。人口が減少しても、持続可能な社会を維持していくために事務局で考えている施策等がありますか。
●事務局	経済の観点でいえば、地元企業が外貨を稼ぐ必要があると考えます。観光でいうと、インバウンドの観光を促進し、外貨を稼ぐ必要があると思います。地元企業の目線でみると、利益を向上するためには、売上の増加もしくは経費削減の2つが考えられますが、経費削減は経済縮小にもつながるため売上の増加を目指していく必要があると考えています。
○副会長	人口が減少しても経済を維持できる根拠が必要だと思います。東京の場合は、関係人口・交流人口で経済を維持しており、関係人口をいかに多く生み出していくかが大事です。全国の多くの地域も同様の課題を抱えており、地域間競争が激化しています。その際に、会津若松が選ばれる強みを考えていくことが重要で、どのようにして会津にきてもらうか、働いてもらうかを計画に記載するべきと考えます。
●事務局	関係人口を増やしていく必要があるのは、おっしゃるとおりだと思います。地域間競争が激しくなるため、会津の歴史・文化を強化・売りにしていく視点が大事だと考えます。
○委員	具体的な施策を打ち出すことが必要ではないでしょうか。会津若松市は、「サムライシティ」を掲げている都市だと思います。そのような歴史・文化を踏まえた、アクションを起こす必要があり、そのための具体的な提案をすることも本会議の趣旨ではないでしょうか。
●事務局	本審議会は、具体的な施策をお聴きする場ではなく、市政全体の方向性を議論する場であるため、全体的な方向性に関するご意見をいただきたいと思います。しかしながら、会津ならではの視点で関係人口を増やしていくことは重要な視点であり、ふるさと納税含めて、対外的な情報発信に取り組んでいるほか、今後も具体的な施策

	を取り組む必要があると考えています。
○委員	10年後に大人になるのは、今の中学生・高校生です。全中高生に向けて、どのような仕事をしたいのか、どんなまちにしたいか等の意見を拾える場があると良いのではないのでしょうか。こどもたちを育てている保護者にも意見をもらおうと、現在の市民の意見が反映されると思います。
●事務局	令和6年度に小中学生向けのアンケートを実施しました。希望職業までは聞いていませんが、どんなまちになってほしいか等に関して、意見を聴取しました。今回の計画策定に向けては、若者会議を実施しましたが、今後はその輪を広げて、リアルな中高生の意見を聞く場を恒常的に作っていきたいと考えています。その場に出てきたアイデアを実際に実現していくことも検討しています。保護者の意見も重要と思っており、意見を聞く場やその意見を踏まえた改善方法を考えるしくみが必要と考えています。
○委員	若者会議参加者は限定的で全ての人の意見を聞いているわけではないと思います。実際に学校に出向いて、全ての学生に対して意見を聞く場が必要だと思います。個人的な意見であるため、事務局からのコメントは不要です。
○委員	人口シミュレーションはデータに基づいた客観性のあるものだと思います。将来展望人口に関しては、客観的なデータと希望的な意見は分けて考える必要があり、想いの部分はどこかに入れておくべきと考えます。
●事務局	希望的な想いの部分は、どこかに入れられるように検討します。
○委員	希望的な想いの部分は、基本構想に入れる形が良いのではないのでしょうか。想いは、スローガンやビジョンに反映されるものだと思います。
●事務局	基本構想の理念に入れ込んでいるつもりではありますが。みんなの未来ビジョンの「#わきあがる」で今後盛り上がっていくとの想いを込めています。

○委員	以前、玉川大学のTAPという体験学習プログラムに参加したことがあります。個人やグループのチーム力を高めるために実施しているプログラムで、チーム内で役割分担をし、目標達成に向けてチーム行動をする内容でした。そのプログラムを通して、当事者が何を望んでいるかを発信することのほか、当事者の希望に他のメンバーが応える形でサポートすることが重要だと学びました。このプログラムで学んだことを総合計画策定やまちづくりに当てはめると、どんなサービスが欲しいか、施設が欲しいか、市民の声を聞くことが重要と考えます。当事者以外が考えても、当事者が望まないものができてしまう可能性があります。 以前、福島市に住んでいたことがあります。子育てサービスや施設が充実しており、子育てしやすい環境でした。SNSをみると、会津若松市の子育て環境について、多くの意見が発信されています。そのような意見を聞いて取り入れることで満足度も高くなるのではないのでしょうか。4年前のワールドカップで長友選手は、若手が意見を言える雰囲気づくりを大事にしたとのこと。これを、まちづくりに当てはめると、市民と行政が1つのチームとして、意見を言いやすい環境・聞く環境づくりが必要ではないのでしょうか。
●事務局	市民からの意見を反映した結果として、県立病院跡地に子育て支援施設をつくる予定です。多世代交流の拠点として、多様な主体がまちづくりに参加するための、つながりづくりに寄与できると良いと考えています。
○会長	中高生全員の意見を聞くことは大事だと考えています。今の中高生が、将来の会津若松のまちづくりの担い手になるため、こどもたちの声を聞きながら支援していくことが重要です。市の回答では、既に対応しているとのことですが、計画にはそのことが記載されておらず、伝わりにくいことが残念です。他市町村との差別化を図るためにも明確にコンセプトとして打ち出すことができないのでしょうか。 また、「まちづくりアクション1」と「まちづくりアクション3」のつながりについて、先ほど平澤委員からご意見があったように、私も人材育成と雇用問題の関連性が弱いと感じます。本市では、女性のキャリアに対する理解不足や育休の取得がしにくい実態がある

	ようです。「まちづくりアクション3」に女性の人材育成やライフワークバランスにどう取り組んでいくかの記載が必要ではないでしょうか。この点について、市ではどのように考えていますか。
●事務局	当該箇所は考え方を示している箇所で、具体的な施策は後段に記載しています。第8次計画で「若者と女性に選ばれるまちづくり」を一番目に打ち出したことが明確な表明と捉えており、これまでの計画にはなかった特徴です。地域の経済界と女性のキャリアがリンクしていないとの意見ですが、まちづくりアクションと政策のつながりについてはまちづくりアクションごとに図で表現しています。具体的な事業が分かりにくい状況と理解しましたので今後具体的な施策を検討していくことができればと考えています。
○委員	中高生が遊ぶ場所がないと思っています。中高生が遊ぶ際には、他地域に遊びに行っているような状況で、そのような環境の中で地元の魅力に気付くのは難しいのではないのでしょうか。若者の遊び場やイオンモールが欲しいです。
●事務局	県立病院跡地にこどもの遊び場が建設される予定ですが、小学生くらいまでが対象の施設となります。中高生にとっては、遊び場というよりも友人との交流の場が欲しいのではないかと推察します。民間でもこうした取組が少しずつみられており、今後少しずつ整備されていくのではないかと思います。
○会長	それでは引き続き、「③基本計画（政策・施策1～9）」について、事務局の説明をお願いいたします。
●事務局	（資料に基づき内容を説明）
○会長	ありがとうございました。「③基本計画（政策・施策1～9）」について、ご意見を頂戴したいと思います。
○委員	「政策2 こどもの成長を支える教育の充実」の「施策（2）教育環境の充実」の中で、「誰もが主体的に安心して・・・」とありますが、実際には大なり小なり崩壊している学校があります。そういった学校をフォローできる文言を計画で言及してはどうでしょうか。

●事務局	少年非行に関しては、全体的に増加傾向であるものの、一部の子どもたちが複数回補導されている実態があります。この背景として、家庭教育の問題があると考えています。家庭を含めた親教育をしていく必要もあり、領域を超えた連携や幼児教育と家庭教育との連携を推進していく必要があると考えています。
○委員	幼児教育よりももっと早い段階の母親教育から始めるのが良いと思います。こどもが産まれると子育てで忙しくなるため、母親学級で子育ての仕方を伝えるためにも「母親学級の充実」の観点を入れてはどうでしょうか。
●事務局	担当課と相談して、検討します。
○委員	会津若松市は合併でできた自治体であり、旧若松市、湊、北会津、河東などの地域が混ざっています。そうした特色を生かし、子どもたちに将来のまちをどうしたいか、考える機会を設けてほしいです。そうした機会を創出することで、子どもたちの会津への愛着心が芽生えるのではないのでしょうか。
●事務局	中高生の意見を聞く場を作ることは検討していきたいと思います。若者の意見を聞く場に関する事業を今後立案していく予定であり、予算を踏まえながらどのようなことができるか検討していきたいと考えています。
○委員	別紙資料 30 ページ 11 行目の「学びの場及び相談・支援体制の充実」の「及び」は、ひらがなの方が良いのではないのでしょうか。
●事務局	市役所では、漢字の取り扱いとしていますが、異なる表現にすることも含めて検討します。
○委員	紙資料 48 ページ「政策 8 健康・医療・福祉の充実」に関連して、個人的な活動で高齢者向けボランティア活動をしています。その活動メンバーに元看護師がいますが、独居老人の食生活・栄養問題に問題意識があるとのことでした。特に、独居老人の食生活に計画でも言及いただきたいと思います。健康でいることは、社会保障費等

	の負担軽減にもつながるため非常に重要な取組だと思います。また、中学生向けにオーラルフレイルに関する講義をしていることもあり、教育の箇所にもオーラルフレイルの観点も言及していただきたいと思います。
●事務局	具体的な事業に関しては、担当課に確認して検討します。
○委員	別紙資料 37 ページの「施策（３）スポーツの振興」について、スポーツ施設の老朽化が進んでいます。賢く縮むとしても、現状に合わせてサービスは維持していかなければいけません。本市はスポーツ施設の減免措置制度が充実しており、県大会や中学生以下を対象とした大会等は施設利用料が 100%減免となっています。しかしながら、その結果赤字が出てしまっては本末転倒です。実費分は徴収しないと維持できなくなるのではないのでしょうか。スポーツ施設の適切な維持に向けて、適切な料金設定等をしていただければと思います。
●事務局	スポーツ施設に限らず、公共施設は公共施設マネジメントという考え方があり、様々な観点を考慮して料金設定等を含めた維持管理を検討していくことになっています。料金設定等、ご意見いただいた内容は担当課に連携します。
○委員	「政策１結婚・出産・子育て支援の充実」の箇所で結婚に向けた環境づくりに関する記載がありますが、成果はどうでしょうか。また、個人的には環境整備された中で出会いを見つけるよりも、もう少し運命的な出会いが良いのではないかと感じています。 「政策４生涯学習と文化スポーツ振興」に関して、中学生の部活動の地域移行が始まりましたが、対象エリアに制約が掛かっている状況です。高校などでは一括して面倒を見ても良いという意見もありますが、エリアに制限があり、対応できていない状況のようです。エリアを広げる形で広域での対応はできないのでしょうか。
●事務局	部活動の地域移行に関しては担当課に伝えます。 結婚支援については、イベントに参加した人がどれくらい結婚したかはプライバシーの観点もあり、把握が難しい状況です。民間のマッチングアプリや結婚支援は信頼できないという方が、信頼ので

	きる行政の結婚支援を活用していると聞きます。また、結婚支援を明確に打ち出さずに、異業種連携という名称で若者を募る取組も行っています。
○委員	別紙資料 48 ページ「政策 8 健康・医療・福祉の充実」の現状と課題「(3) 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境の整備」に関連して、行政が今まで担っていた事業が民間に移行しているものもあります。
●事務局	大きな流れとしては、行政がやっていたサービスを民間が行う流れもあるのではないかと思います。他方で行政がやっているからこそ、安心できることもあるため、いただいた意見については担当課に伝えます。
○委員	公共施設やサービスのあり方については、市街地にすべて集約するのではなく、会津若松市街、河東、北会津、湊などの地域単位で介護施設や教育施設を集約させて、行政サービス提供をしていくことが重要ではないでしょうか。行政が責任をもって対応してほしいと思います。
●事務局	具体的な回答は差し控えますが、いただいたご意見は担当課に伝えます。
○会長	この計画には綺麗ごとしか書かれていないと思います。実際に市民が感じている生活の不安や苦しさなどへの言及とそれに対して、こう取り組んでいくという記載がないです。コラムのような形式でもいいので、リアルな現状認識と対応策の記載について検討していただきたいと思います。
●事務局	素案に記載はありませんが、製本までの過程でコラム、や写真の活用、デザイン等の工夫は施したいと考えています。
○会長	それでは引き続き、「④基本計画（政策・施策 10～19）」について、事務局の説明をお願いいたします。
●事務局	（資料に基づき内容を説明）

○会長	ありがとうございました。「④基本計画（政策・施策 10～19）」について、ご意見を頂戴したいと思います。
○委員	「政策 10 市民生活の安全の確保と地域防災力の強化」の防犯の箇所で空き家対策が抜けていると思います。割れ窓放置が散見され、犯罪の温床にもなりかねません。また、空き家が点在することで、火事の延焼が懸念されます。ぜひ、防犯の中に空き家対策の観点も入れていただきたいと思います。
●事務局	政策 12 の空き家対策の箇所で言及しています。空き家問題は防犯や景観等様々な観点に関連してくると思いますが、具体的な取組は空き家対策の箇所で言及できればと考えています。
○委員	別紙資料 55 ページで記載がありますが、鶴ヶ城周辺エリアなど稼げるところで稼ぐべきと思います。10 年～20 年計画でもいいので、美しいまち、稼げるまちを形成していただき、併せて市民への情報発信もお願いしたいと思います。
●事務局	今回の計画で「鶴ヶ城エリア周辺のまちづくり」に初めて言及しました。長野県松本市の総合計画では、「松本城を核としたまちづくり」を掲げており、参考にしました。松本市では民間団体が主体となって、まちづくり活動を行っています。本市でも、民間が主体となってまちづくりをけん引いただきたいと思います。
○委員	政策 13 に関連して、免許返納をして通院できなくなっている患者もいます。高齢者の免許返納後の移動手段への言及がないため、この点を踏まえた交通ネットワークの再構築を検討いただきたいと思います。
●事務局	ご指摘のとおり、現状ではその部分に言及できていないため、検討します。
○委員	政策 18 に関連して、市職員の方の長時間労働の是正についても取り組むべきではないでしょうか。

●事務局	市役所内でも長時間労働を是正できるようなくみづくりができればと考えています。
○委員	別紙資料 54 ページの「施策（３）防災意識の向上と誰一人取り残されない地域防災力の強化」について、本市は災害が少ないこともあり、市民は防災意識が低いと感じます。現に、自主防災組織の組織率が１割にも満たない状況です。自主防災組織の組成を強く推進するような記載にすべきではないでしょうか。
●事務局	文章表現を検討します。他方で、市民の負担への配慮も必要であり、多様な主体が関われるような組織の組成が求められると考えています。
○委員	次期計画書は市民に配布する予定でしょうか。福島県の計画では概要版・こども版を作成しています。学校で計画の内容を話してもらうことが重要だと思うので、そうした機会を設けてはどうか。
●事務局	次期計画書は関係機関には冊子として配布しますが、基本的にはインターネットで共有する予定です。ただし、概要版については２万部程度を印刷し、市内全小中学校に配布する予定です。その際には、子どもの描いた絵を掲載する等、子どもの記憶・思い出に残るような仕掛けをしていきたいと考えています。
○委員	先ほど、観光振興による外貨獲得という話がありましたが、いかに地域住民に還元させられるかは課題だと思います。また、人口減少が進行している状況で交通ネットワーク維持はどのように取り組む方針でしょうか。縮小していく必要もあるのではないのでしょうか。そのほか、行政のデジタル化については、オンライン申請を増やすだけでなく、業務にどのように組み込んでどのような便益をもらしていくか、などの視点も必要だと思います。総括してみると、人口減少社会に適応していく計画なのか、それとも人口減少を克服して成長していく計画なのか、どちらに重きを置く計画なのか、疑問を抱いたところです。すべてを行政に任せていいものではなく、民主主義の視点を踏まえると市民もともに考えていく必要があると思います。

●事務局	観光業界については収益を上げ、地域住民の手取りの向上につなげていく必要があると考えます。公共交通は先ほど申し上げたとおりです。行政のデジタル化は効率化により生じた余剰リソースを非デジタルでの対応に配分し、手厚くしていく方針です。官民連携・市民協働で市民とともにまちづくりを考えていければと思います。
○会長	ほかにご質問等がないようですので、(2)その他に入ります。委員の皆様から何かございますか。
○会長	事務局からは何かございますか。
●事務局	(次回審議会の開催予定)
○会長	その他、何かありますでしょうか。 ないようでしたら、以上で議事を終了いたします。これをもって議長の任を解かせていただきます。委員の皆様、ご協力ありがとうございました。
●事務局	岩崎会長ありがとうございました。 以上をもちまして、「第6回会津若松市総合計画審議会」を終了いたします。長時間にわたりご審議いただき、誠にありがとうございました。

4. 閉会